



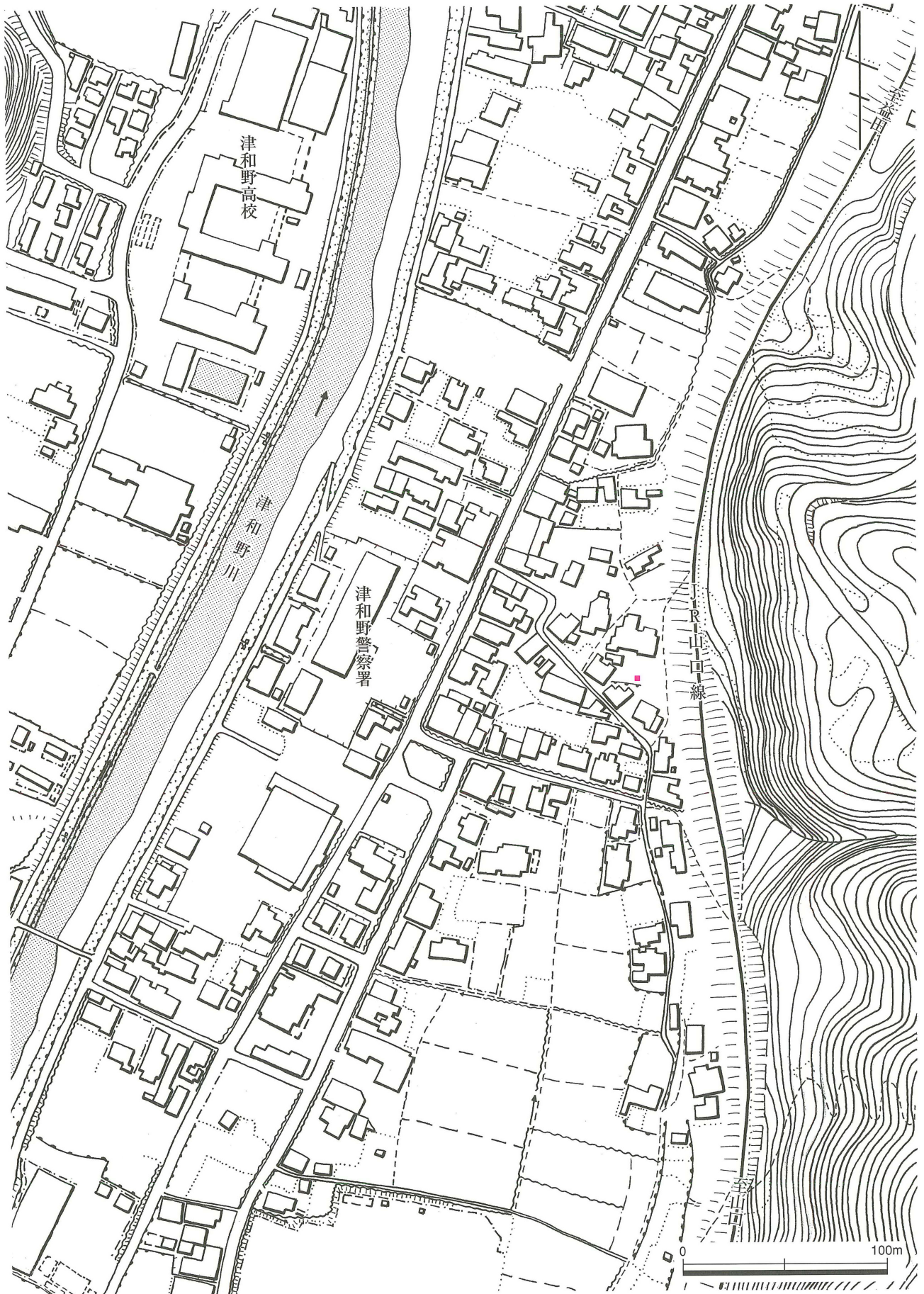
1. 発掘調査風景



2. 完掘状況

第5項 森村地区

- ①住所 津和野町森村イ6-2
- ②調査原因 個人住宅新築
- ③調査内容 新築予定範囲のうち、浄化槽設置予定地を対象にし、試掘調査を一ヶ所実施。
- ④調査結果 津和野城下町遺跡内ではあるが、埋蔵文化財は確認出来なかった。
- ⑤遺跡の時代と種類 なし
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土遺物と概数 なし
- ⑧調査所見 現代の造成コンクリートの下は、地表下約10～25cmまでの黒褐色の第2層（旧表土）が約15cmあり、その下に第3層（灰褐色土）が地表下約25～50cmまで、約25cm堆積していた。第3層より下は、玄表石（各閃石安山岩）の自然石を多く含む第4層（にぶい褐色土）が存在しており、遺物を包含しない地山層であると考えられる。
- 今回の調査においては、いずれの土層からも遺構・遺物は確認されなかったが、これまで調査した他地点の遺物包含層と今回調査した第3層とは類似している。城下絵図に描かれている町屋が存在しているとすれば、この第3層の時期である可能性があり、今後とも周辺において、試掘確認調査を継続していく必要があると考えられる。



第7図 森村地区試掘調査配置図



1. 試掘調査地近景

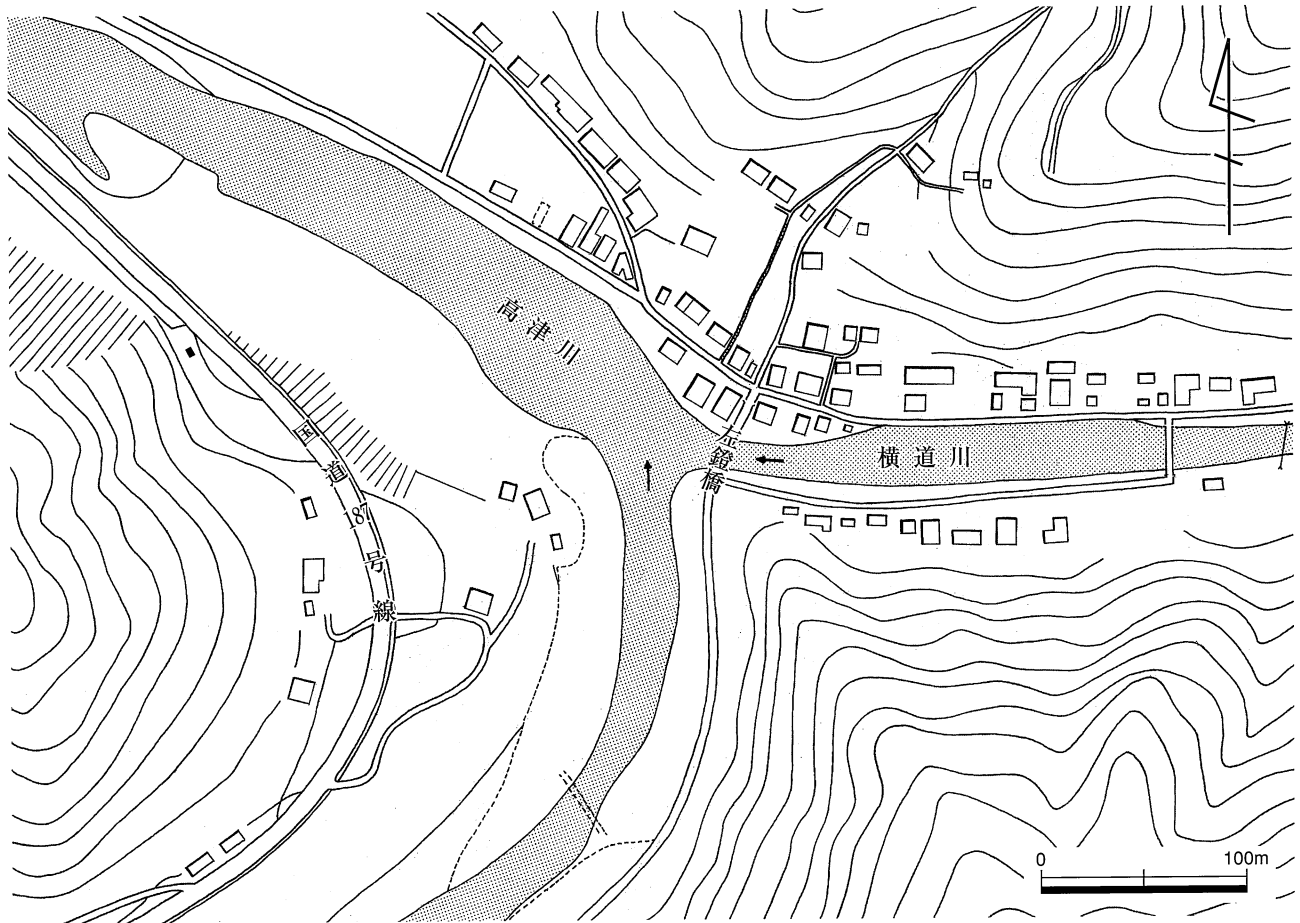


2. 試掘調査土層断面

第2節 平成19年度 (2007)

第1項 左鐙地区

- ①住所 津和野町左鐙773-4
- ②調査原因 (株)NTTドコモ「日原万瀬基地局」事業
- ③調査内容 基地局予定地を対象にして、試掘調査を1ヶ所実施。
- ④調査結果 遺跡の存在は確認できなかった。
- ⑤遺跡の時代と種類 なし
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土遺物と概数 なし
- ⑧調査所見 当該事業計画区域内において、1m×2m四方の試掘調査を実施した。
その結果、遺物・遺跡等は確認することが出来なかった。



第8図 左鐙地区試掘調査配置図



1. 調査地点近景

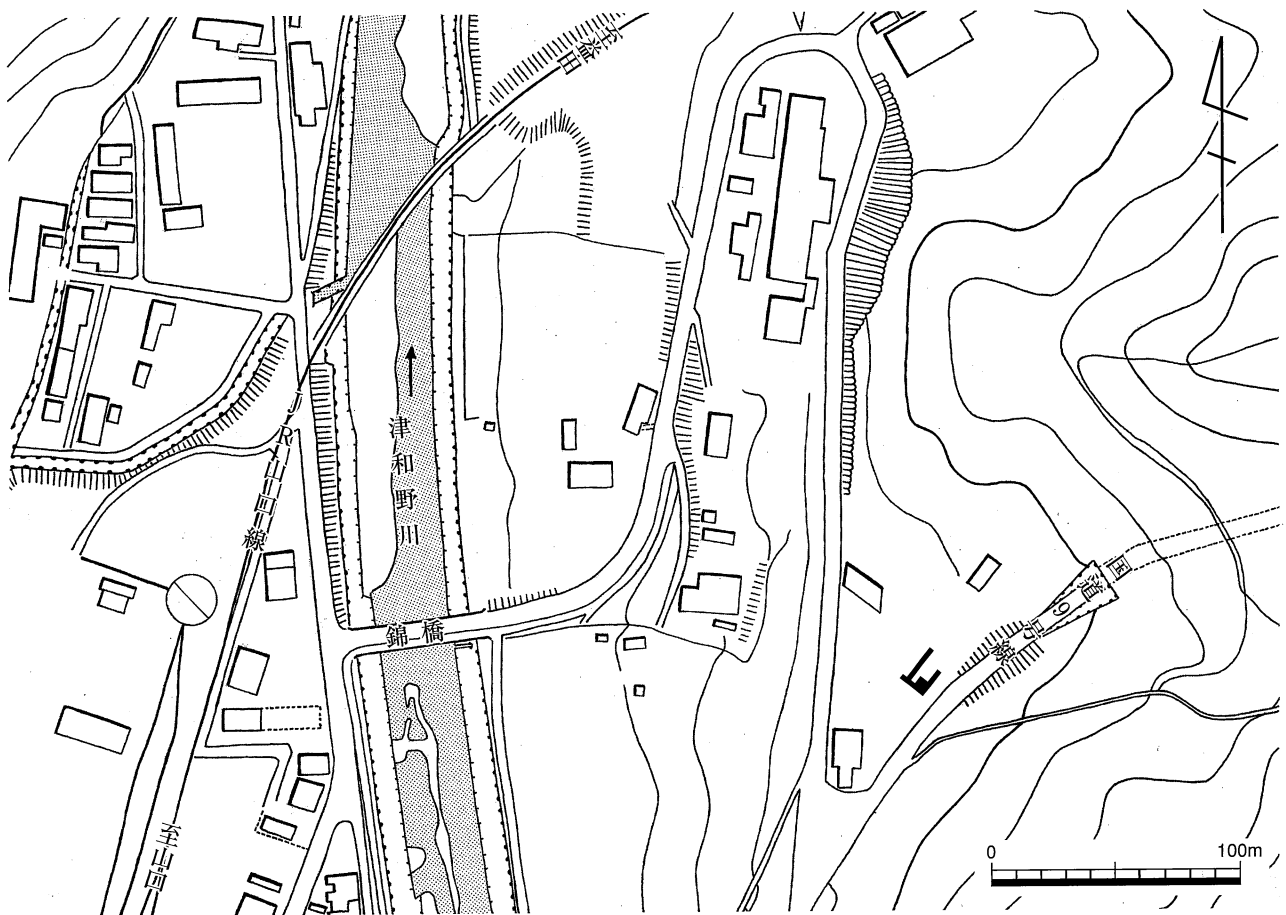


2. 完掘状況

第2項 寺田地区

- ①住所 津和野町寺田765-1
- ②調査原因 (株)NTTドコモ「津和野寺田基地局」事業
- ③調査内容 基地局予定地を対象に、試掘調査を実施。
- ④調査結果 遺跡(舂ヶ峠石丁場跡)の存在を確認した。
- ⑤遺跡の時代と種類 江戸時代 近代
- ⑥主な発見遺構 集石土坑
- ⑦主な出土物と概数 なし
- ⑧調査所見

当該事業計画地内において試掘確認調査の結果、割石を含む集石土坑を検出した。この集積土坑からは、陶磁器などの出土遺物がなく、また割石にも矢穴痕が確認できないことから、津和野城石垣の採石時の遺構であるかどうか、断定できなかった。ただし、事業計画地の西側隣接地には、津和野城石垣の採石時の可能性も考えられる残置石(矢穴石)が存在していることが明らかとなった。



第9図 寺田地区試掘調査配置図



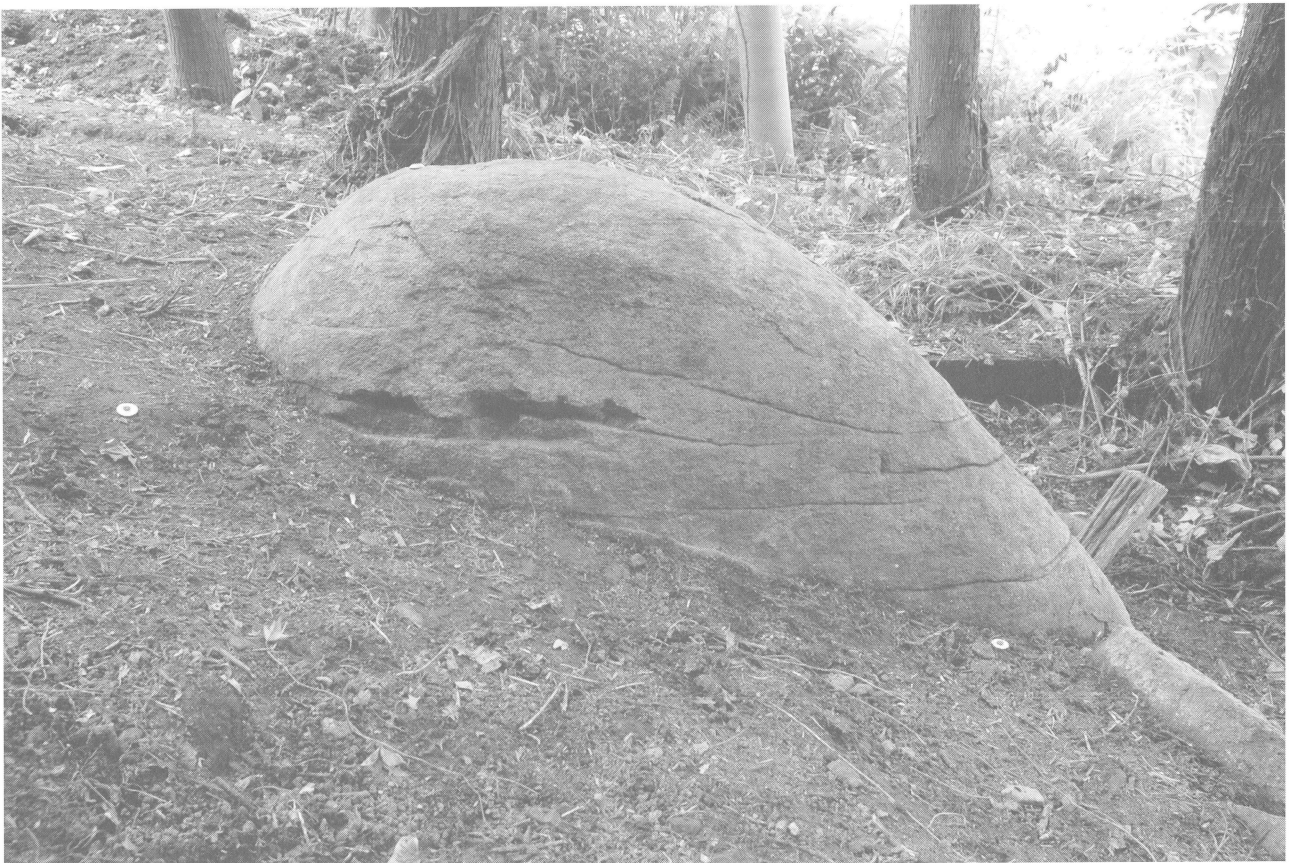
1. 試掘確認調査状況



2. 集石土坑中の割石検出状況



1. 残置石（矢穴石）の確認状況



2. 残置石（矢穴石）の側面

第3項 後田地区

- ①住所 津和野町後田口60-35
- ②調査原因 個人住宅新築
- ③調査内容 新築予定範囲のうち、浄化槽設置予定地を対象にし、試掘調査を1ヶ所実施。
- ④調査結果 遺跡（城下町遺跡）の存在を確認した。
- ⑤遺跡の時代と種類 近世（江戸時代）～中世（室町時代）の城下町・集落跡
- ⑥主な発見遺構 石列、貼土（土間か）、集石土坑、ピット（柱穴か）
- ⑦主な出土物と概数 陶磁器（染付磁器・陶器等）コンテナ1箱、瓦（赤瓦・いぶし瓦）コンテナ1箱、土器（土師質土器）コンテナ1箱、金属製品（釘）コンテナ1箱
- ⑧調査所見 現代・近世の造成土の下は、地表下約0.3～0.7mまで遺跡が存在していることを確認した。

検出した遺構面（当時の生活面）は4面である。第1遺構面では、焼土が少量出土していることから、幕末期（嘉永6年）の大火以降、近代までの遺構面と推定され、石列と集石土坑を検出した。第2遺構面は江戸時代後半期と推定され、屋敷建物に伴う土間の一部ではないかと考えられる明黄褐色の貼土を検出した。

第3遺構面は江戸時代前半期頃と推定され、集石土坑とピット（浅い穴）を検出した。第4遺構面は、江戸時代の陶磁器が出土しないことから、中世（室町時代）のころである可能性があり、ピット（柱穴か）を3穴検出した。

地表下約0.7m以下は砂と石の混じった土であり、津和野川の氾濫による堆積層であると考えられ、応永2年（1395）の津和野川の大洪水以前に埋まった土であると推定される。

今回の調査地点は、津和野城下町の他の調査地点と比較すると、江戸時代の火災層が薄いことが特徴的である。このことは上級武家地であるため庭空間が比較的多いことや、津和野川に隣接しており大火の影響を受けにくかったことも要因として考えられる。また、中世（室町時代）の可能性のある第4遺構面が確認されたことは、調査地点の南西にある弥栄神社（祇園社）に関連した中世の遺跡が近辺に存在している可能性が高く注目される。